

- ② 非常に小さな音（ピアニシモ）
- ③ ①と②の中間の音（標準的な音）

皆さんは③の標準的な音に対して、①と②の場合は口元がギュツと緊張して小さくなり、上歯と下歯の距離が接近していないでしょうか。

結論から言いますが、①②③共に唇の緊張があまりない、上歯と下歯の距離もほとんど変わらないというのが正しい吹き方です。と言うことは、口元が緊張して小さくなったり上歯と下歯が接近するという吹き方は好ましくありません。

4 なるべく音と音を繋いで演奏する。

マイクを使用しない場合は、なるべく音をつないでテヌートで演奏することを心掛けてください。

マイクを使用する場合、通常はエコーが効いているので音がブツブツと切れていても音が繋がって聴こえます。しかし、マイクを使用しない場合はエコーが効かないので、音が切れてしまい幼稚な演奏になってしまいます。ですからテヌートで（音と音を繋いで）演奏することを心掛けてください。

音楽には大きく分けるとクラシック系とポピュラー系がありますが、クラシック系の音楽は基本的にマイク（音響機器）を使用しないので、音と音が切れないようにテヌートで演奏することを強く意識します。これに対してポピュラー系の音楽は大抵の場合、音響機器を使用してエコーを効かせるので、音と音を繋ぐという意識がクラシック系程強くはありません。

ハーモニカで生演奏をする場合は、クラシック音楽を奏でるように演奏してください。マイクを使用する場合と使用しない場合の音の処理の違いを以下に示します。

- ① マイクを使用しない場合（音と音の隙間をなるべく埋める）



- ② マイクを使った演奏の場合（音と音の隙間が比較的広い）

音と音の隙間をエコーでカバーするので、違和感はあまり感じられない。



 赤色はエコーでカバーする部分

※マイクを使用する場合に①のような演奏をすると、音がギューギュー詰めになり非常に堅ぐるしい演奏になってしまいます。マイクを使用する場合は、エコーの響きを考慮して演奏しましょう。②のように程よい減衰をすると心地よく聴こえます。

5 深い呼吸を意識する。

マイクを使用しない場合は、深呼吸をしながら演奏するというイメージを持ってください。そうすることで大きな音(遠くに響く音)を出すことができるようになります。